

地域教育実践交流集会 2022

第15回大会

12月3日(土)10:00 受付開始

16:10 頃終了

開催場所:国立大洲青少年交流の家

参集およびオンライン開催

かかわりをチカラに つながりをカタチに

地域教育で未来を創る



撮影 村上 伸二

※このポストイットに感想を書いて、大ホールのボードに貼ってください。

主催 地域教育実践ネットワークえひめ

後援 文部科学省・愛媛県・愛媛県教育委員会・「えひめ教育の日」推進会議・愛媛県教育研究協議会

協力 国立大洲青少年交流の家・NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構

ようこそ



地域教育実践ネットワークえひめ
代表 若松 進一

新型コロナウイルスの影響が長く続き、それだけでなく曖昧な過去の記憶がより曖昧になり、未来を志向しなければならぬはずなのに、オンラインの会合を何度か重ねてきましたが、画像に映る仲間の顔や言葉からは、残念ながら心をときめかすような感情の高まりが伝わってこないのも事実です。さりとして長年続いた歩みを止めることもできず、多少右往左往しながら今年も第15回地域教育実践交流集会を国立大洲青少年交流の家にてハイブリットで開くべく、6回の実行委員会を積み重ね準備を進めてきました。

幸い手元に届いた分散会の事例発表要旨を見る限り、県内・県外の各地で行われている諸活動は、草の根的にしっかりと息づいており、交流集会で意見を戦わせればそのことが起爆剤となって、さらに新しい力になるような予感がしています。

コロナ禍で地域教育に関する実践の場は極端に狭められ少なくなっていて、成長期の子どもたちへの影響が気になります。ゆえに子どもたちの育成に関わる人々がお互いの実践を本音で語り合い、元気を分かち合いながら豊かな交流を育んで行きましよう。「地域教育で未来を創る」これが今回のテーマです。



Schedule

進行：堺 雅子（地域教育実践ネットワークえひめ副代表）

- | | |
|-------------|--|
| 10:00 | 受付 アトラクション(動画にて各分散会で視聴)
○菊間町:お供馬の走り込み○東温市:浮嶋神社の練り行事○西予市:獅子舞 |
| 10:30~10:40 | 開会行事
挨拶:地域教育実践ネットワークえひめ代表 若松 進一 |
| 11:00~12:30 | 分散会《15 ルーム※この分散会に参加するかはお楽しみで》 |
| 12:30~13:30 | 昼食 |
| 13:30~14:45 | 全体発表
○県外:特定非営利活動法人 ひとつむぎ ○県内:よみがえれ!亀ヶ池温泉プロジェクト |
| 15:00~16:00 | おでん∞café お題「全体発表を聴いてどう思ったか」
回し人 舟田 美加 |
| 16:00~16:10 | 閉会行事
挨拶:地域教育実践ネットワークえひめ副代表 関 福生 |

アトラクション 10:00~10:30

菊間町:お供馬の走り込み

「お供馬の走り込み」は菊間町加茂神社の祭事で、起源は約 500 年ほど前の室町時代、京都上賀茂神社葵祭(あいまつり)の行事をまねて始まったものと伝えられています。祭用の鞍や装飾具を着けた馬に、3~15 歳までの少年が乗子(騎手)となり、「ホイヤー、ホイヤー」の勇ましかけ声とともに 300m の参道を駆け抜けます。

家内安全・五穀豊穰を祈願して行われるこの行事は、愛媛県無形民俗文化財に指定されています。



東温市:浮嶋神社の練り行事

このお祭り・イベントは、浮嶋神社の秋祭りで、開運招福、風紀繁盛、交通安全、安産守護などが御利益です。平成 9 年に東温市の無形民俗文化財に指定されています。

浮嶋神社の秋祭りでは、宮司の神事が執り行われ、子ども神輿、新神輿、古神輿を含んだ「ねり行列」一行が出発します。行列には、国旗、化粧まわしを着けた力士などが含まれ、総勢 175 名です。御旅所は、西御旅所、巖島御旅所、堀池御旅所でそれぞれ神事が執り行われます。



西予市野村町の伝統文化「獅子舞」

大人から子供へ、親から我が子へ、ずっと昔から伝えられてきました。小さな町ですが、地域のみんなが大切にしています。

こうした、「小さな」伝統が、今、危機を迎えています。人口減少による、担い手の減少です。

私の友人も子供のころから獅子舞をずっと踊り、結婚し、2人の息子にも伝えてきました。しかし、その息子たちも大人になり、県外に就職し、今は野村にはいません。

同じようなことが、他の家庭も起きているのです。

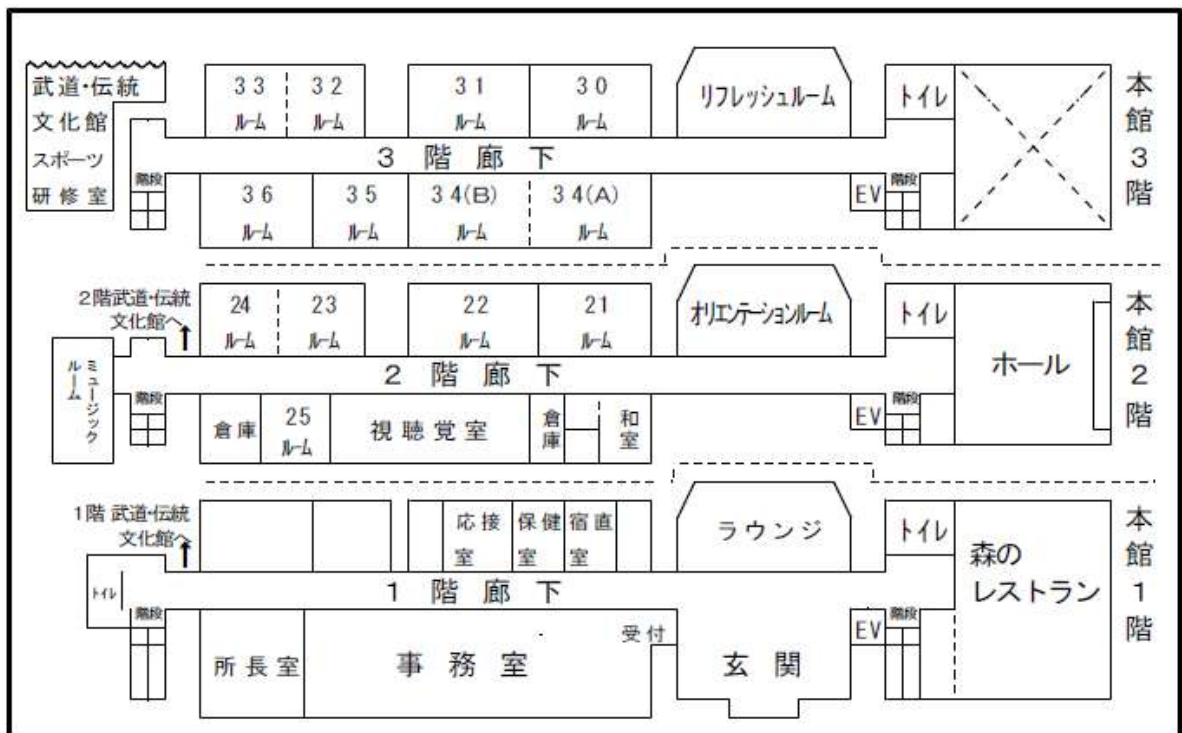
決して派手ではなく、人が多く集まるような祭りではありません。しかし、南予の人たちにとって、とても大事なもののなのです。



分散会一覧

	room	発表団体名	地域		room	発表団体名	地域
1	31	NPO法人まちの食農教育	徳島県神山町	8	34(B)	寺家田んぼ“〇むすび”	神奈川県横浜市
		西予市教育委員会 田之筋公民館	西予市			防災リーダークラブ	松山市
2	リフレッシュ	特定非営利活動法人ひとつむぎ	徳島市海部郡牟岐町	9	34(A)	名寄市教育委員会	北海道名寄市
		野村地域自治振興協会	西予市			えひめ地域こども食堂ネットワーク	愛媛県内
3	30	あおばコミュニティ・テラス	神奈川県横浜市	10	オリエンテーション	未来応援コミュニティb-roomがるーむ	大分県大分市
		地域活動交流拠点「あすもわ」	八幡浜市			(株)サン・クリア	宇和島市
4	32	NPO法人うらほろスタイルサポート	北海道浦幌町	11	21	益田市教育委員会	島根県益田市
		よみがえれ! 亀ヶ池温泉プロジェクト	伊方町			松山市青少年育成市民会議	松山市
5	33	富良野市教育委員会 (富良野市子ども会育成連絡協議会)	北海道富良野市	12	22	国立市公民館	東京都国立市
		オンライン防災グループ	西条市			双海町ジュニアリーダー会	伊予市
6	36	豊栄郷土カルタを作ろう会	広島県東広島市	13	23	KSVN(嘉瀬小学校ボランティアネットワーク)とようひろば部	佐賀県佐賀市
		うわじま圏域子ども観光大使 実行委員会	宇和島市			愛媛県立三崎高等学校	伊方町
7	35	ヘルシーカフェのら(合同会社のら)	埼玉県さいたま市	14	24	NPOおのみち寺子屋	広島県尾道市
		愛媛大学 社会共創学部 牛山ゼミ 学生プロジェクトチーム	伊予市			特定非営利活動法人 松山さかのうえ日本語学校	松山市
※分散会は、県外発表者はオンラインで、県内は参集で 繋がります。分散会2, 14, は県外の方も参集、15は県内2事例 のため、オンラインでの参加はありません。				15	ミュージック	NPO野真戸	松山市
						えひめ農業遺産で なんかしようや!の会	愛媛県南予地方

会場見取り図



分散会 1

31room

ファシリテーター 西川 浩司
記録者 山本 葵子
会場責任者 赤石 雅俊

NPO 法人まちの食農教育

樋口 明日香

～食農教育活動～

徳島県神山町「まちを将来世代につなぐプロジェクト」の一環として 2016 年に設立された株式会社フードハブ・プロジェクトでは、「農業を次世代につなぐ」を合言葉に、農業者の育成を主軸に食堂やパン屋、加工場の運営、地域の子どもたちへの食農教育を進めてきました。

保育所、小学校、中学校、そしてまちで唯一の高校である農業高校まで幅広い年代の子どもたちに農体験を提供してきた 6 年間を経て、2022 年に NPO として食農教育部門が独立。これまで進めてきたまちぐるみの農体験を背景に、今後は学校食というあたらしい概念をつくっていかうとしています。

西予市教育委員会 田之筋公民館

上甲 啓一郎

～地(知)域ぐるみですすめる人材育成(子どもを核とした活動)～

田之筋公民館は、愛媛県下はもとより全国でも独立公民館の先駆けとなった公民館(昭和 22 年 4 月に完成)です。戦後の混乱期の中で独立公民館運営 を敢然と行った地域住民の社会教育に対する情熱は、今も脈々と後世に受け継がれて現在に至ります。

今回、子どもが真ん中の人材育成、青少年教育活動と、控えめに言っても素敵な田之筋地区の地域活動を、社会教育現場に奇跡のカムバックを果たした 12 年ぶり2回目の公民館主事が余すことなくお伝えできればと思っています。(公民館活動及び地域づくりについては下記 QR コードを参照ください)



←たのすじ地域づくり協議会 facebook
[https://www.facebook.com/たのすじ地区
地域づくり協議会-305903016140916/](https://www.facebook.com/たのすじ地区地域づくり協議会-305903016140916/)



たのすじ地域づくり協議会Instagram
[https://www.instagram.com/tanosuzi/
?hl=ja](https://www.instagram.com/tanosuzi/?hl=ja)

地域教育実践交流集會も今年で 15 周年、高校生から高齢者の方々まで、たくさんの方々を知り合うきっかけともなりました。

また、毎年募集をしている実行委員会のメンバーも、立場を超えて、ともに集い、笑い、悩み、達成した喜びを分かち合う仲間となりました。

今回は、初回から、あるいは、数年前から、この会に積極的に参加していただき、礎を築いてくださった方々にショートメッセージをいただいております。

1 年に 1 度のこの集會のために、たくさんの子カラが加わって、大きな波となる、その波が次の世代へ引き継がれるものと

新しいものが一緒になり、さらに、新しい波となっていく。

毎年、初めて知る活動と、長期に渡って継続するために工夫し試行錯誤している活動、感動と勇気をもらいます。古びた頭脳にならないように気を付けながら…

For the times they are a-changin'



分散会 2

リフレッシュ room

ファシリテーター 山中 健司
記録者 西村 隆信
会場責任者 赤石 雅俊

特定非営利活動法人ひとつむぎ

岸 壮真

～キャリア教育プログラム「シラタマ活動」、「ローカルハイスクール(青少年講座)」牟岐中学校での平和学習～

当法人は徳島県南部の牟岐町で活動する学生 NPO です。2015 年、中学生対象のキャリア教育プログラム「シラタマ活動」に着手、2016 年からは高校生対象の「ローカルハイスクール」を実施、また、プログラム参加者が大学進学後に当法人に所属する「人材の循環」を生み出しています。

しかし、新型コロナウイルスの影響で対面での活動が制限された影響は大きく、大学生がノウハウを引き継ぐことやモチベーションを持続させることが難しくなっています。

そこで、オンラインを活用した高校・大学生対象のセミナーや、中学校で平和学習の授業(沖縄戦、広島原爆等に関する取材実施)を担当するなど、地道に活動を続けています。

野村地域自治振興協議会

染田 麻弓子

～野村地域「地域教育プロデューサー」の活動～

野村地域自治振興協議会では、地域教育の推進を目的にキャリア教育ミッションでの地域おこし協力隊を採用しています。発表者は、令和 3 年 7 月から西予市野村地域で活動しており、放課後子ども教室のコーディネーターや高校生まちづくり団体「N-ジオチャレ」の活動サポート、野村中学校の総合学習のプロデュースなどに携わっています。

今年度からは野村中学校の運営協議会の委員をつとめ、県教育委員会が登録する「西予市地域教育プロデューサー」として活動を行っています。

その地域の出身ではない「地域おこし協力隊」が地域教育プロデューサーとして活動するにはハードルが高いこともあります。その活動の経緯・成果と 1 年間の活動を通して見えてきたものを報告します。

地域教育実践交流集会に関わるようになって、全国・県内各地で自ら楽しみながら地域のために頑張っている方々とつながり、刺激を受け、自分の世界が広がりました。

ここ数年はオンラインでのつながりでしたが、画面を通して知り合いになった方と直接会うという新たな楽しみが増えました。「いつか会えるかな…」「やっと会えた！」という期待や喜びは、今までになかった感覚です。

そんなワクワクする機会がこれから増えていくことを楽しみにしています。



中島 弘二

分散会 3

30room

ファシリテーター 橋本 泰志

記録者 二宮 章紘

会場責任者 赤石 雅俊

あおばコミュニティ・テラス

木村 壮・牧野 栞

～あおば未来プロジェクト/あおばユース WAVE～

横浜市青葉区 青少年の地域活動拠点『あおばコミュニティ・テラス』は 2 年目を迎えました。今年度も「あおば未来プロジェクト」の公募を行い、多くの中高生が集まりました。各々の課題意識を話し合うことで 6 チームを編成し、大学生がサポーターとなり課題解決に向かって進んでいます。2023 年 3 月には政策提言を行う予定です。

また、昨年“浜なし”の皮を使った香水づくりの商品開発チームは、「あおばユース WAVE」として活動し、今夏、企業と連携したことで新しい展開をみせています。

高校生、そしてサポーターとして関わっている大学生が、それぞれの活動をする中で見えてきた「気づき」「問題点」など事例を通し発表します。

地域活動交流拠点「あすもわ」

井上 万里

～地域おこし協力隊によるコロナ禍での活動～

2021 年に大阪から八幡浜市神山地区の地域おこし協力隊に就任。現在は、地域活動交流拠点施設「あすもわ」にて、子供からお年寄りまで、誰でも利用できるコミュニティスペースづくりに取り組み、定期的に地域向けのイベントなどを開催しています。

コロナ禍だからこそ地域に寄り添い、地域の方々の意見を取り入れ、協力隊の外からの視点を活かした活動を展開、また、神山地区はこども食堂、公民館活動等も積極的に行っており、その取組もあわせて報告します。

将来は八幡浜市内でみかん農家に転身する予定。

『希望』

「元気で頑張っていましたか？」笑顔とともに交し合う。地域教育実践交流集会の始まりの言葉と笑顔が自身の活動の原動力となっています。

第 1 回目は事例発表者として、爾後、実行委員として今年 15 年目を迎えます。それぞれの実践活動を話し合うことで、多くのヒントを得ています。また、昨今、よく言われている「安心・安全な場」がすでにしっかりと備わっていたのだということにも気づかされます。そのことは「51 の会」を立ち上げ、交流会で“アバレル”パフォーマンスを行うチャンスを得ていることから感じます。大切なキーパーソンの方々に巡り合うことができました。

この人たちのおかげで今の活動につながっている・・・まさに「人儲け」で豊かなネットワークと実動力をいただいています。「手間」「居間」「仲間」「世間」づくりという地域教育実践交流集会在心がけてきたことは、自身の活動にもゆるやかに伝わり、愛媛と横浜での二拠点においてもぶれない活動へと導いてくれています。

久々の県内参集の集会、「元気で頑張っていましたか？」の言葉と笑顔を楽しみに新たな人儲けに希望をもって…

武智 理恵

分散会 4

32room

ファシリテーター 遠藤 敏朗
記録者 須山 華鈴
会場責任者 中尾 茂樹

NPO 法人うらほろスタイルサポート

本間 悠資

～うらほろスタイル推進事業～

地域社会の持続のため「未来の担い手を地域ぐるみで育む」と、「次世代が夢と希望を抱けるまちをつくる」という2つを軸として以下の5つの事業を実施。

1. 地域への愛着を育む事業
小中学校の教育課程内で地域と学校が協働で体験学習を実施
2. 農村つながり体験事業
小学5年生を対象とした地域内での農林漁家民泊体験学習を実施
3. 子どもの想い実現事業
子どもたちが考えた町に対する提案や要望を大人たちが実現していく活動
4. 中高生つながり発展事業
町内在住・出身の中高生による自主活動団体「浦幌部」による地域活動のサポート
5. 若者のしごと創造事業
町に住み続けたい子ども・若者のための雇用の場と、起業等のチャレンジをする土壌整備

よみがえれ！亀ヶ池温泉プロジェクト

浅野 さやか・阿部 眞子

～よみがえれ！亀ヶ池温泉プロジェクト～

昨年8月、伊方町の主要観光施設の一つである亀ヶ池温泉が、火災で焼失しました。町内外の人々にとって心のよりどころであり、地域活性化のランドマークでもあった亀ヶ池温泉。その再建に向けて「私たちも何かしたい！」という思いから、伊方にゆかりのある大学生と三崎高校生がオンラインでつながり、亀ヶ池温泉の未来について語り合いました。若者目線で様々なアイデアを創出し、話し合い、具体的なプランとしてまとめました。それらを後日、伊方町の亀ヶ池温泉再建検討委員会にて提案させていただきました。

今回のお話が皆さまにとって、伊方町に・亀ヶ池温泉に・その発展を願う人々に、関心をもってもらえるきっかけになれば幸いです。

15 回目は、ハイブリット開催！
どんな状況でも工夫を凝らし、対応してくれる仲間がいる
ことに感謝ですね。

まさに「地域教育」の力です。

今年も、集い、学び、語り、大いに交流しましょう。



J R 下灘駅フィールドミュージアム運営委員会事務局
松本 宏

富良野市教育委員会(富良野市子ども会育成連絡協議会)

～富良野市子ども会事業～

藤野 翔太

富良野市子ども会において長年行われている、小学4年生から中学3年生までを対象としたリーダー研修会事業について、その事業内容及び開催にあたっての目的や思い、また参加者である子どもたちと、事業スタッフとして関わる富良野市青少年サークル(高校生)と子ども会に関わる地域の大人たちの関係、長年引き継がれていく学びと関わりの循環から郷土愛の育みや地域の担い手育成を進めていく活動についてさらにコロナ禍における活動の工夫などについて発表します。

オンライン防災グループ

堀江 俊佑

～オンラインを通してつくる新しい「地域防災」～

地元“西条”を拠点に、コロナ禍を逆手にとって、オンラインによる防災の学習会を全国展開しています。

すでにオンライン防災講演会は約 40 回、オンライン防災おしゃべり会は約 30 回を数えます。全国から防災に取り組む大学教授、教職員、高校生、防災士、経営者、お笑い芸人などの多様な活動家を紹介し、ネットワークを広げつなげることで、防災の学びの推進を図っています。

また、オンラインで集まったメンバーとのプロジェクト活動で、コロナ禍後の地域などでの防災活動に役立つツール開発にも取り組んでいます。避難所運営に係る教材「さすけなぶる」を使ったシミュレーションワークショップや独自の防災カルタ等を活用した防災教育もどんどん進めています。

「ごちゃまぜ」が地域を変える

2007年10月「日本ボランティア学習学会」が、国立社会教育実践研究センターであった。その時、木村精一さんから書籍でしかお会いしたことのなかった伊藤俊夫先生を紹介される。勢いで「ぜひ、愛媛にお越しください」とお願いすると快諾して戴ける。帰松して讃岐先生に相談すると、来て戴けるのならそれなりの「場」をつくらうという事になり、ごちゃまぜの「おでん集会」というコンセプトが決まる。

また、他県の状況も把握しようと「中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流集会」と「ひとつづくり・地域づくりフォーラム in 山口」を視察する。その中から、三浦清一郎先生や福岡の方々との相互交流も始まる。2008年に手弁当方式で開催すると、参加者が主人公になる仕組みが好評で15年が経った。コロナなど想定外の事もあったが、参加者と実行委員の力が合わさり続けられて本当に良かったと感じている。

仙波 英徳

分散会 6

36room

ファシリテーター 田中 行
記録者 八木 正汰
会場責任者 谷川 玲子

豊栄郷土カルタを作ろう会

堀川 南・前濱 恭子

～豊栄郷土カルタ…多様な主体とのつながりで育む地域の未来～

「豊栄郷土カルタ」は、広島県東広島市豊栄地区の魅力や歴史を題材としたカルタです。子供達が地域の宝を知り、郷土愛の醸成につなげる取組として、地域センターが中心となり、3年計画で企画し、令和4年3月に完成しました。

取組にあたっては、地元の小・中・高等学校と連携するほか、様々な補助金の活用や地元企業・住民自治協議会の協賛を始め、地域ボランティア、市教育委員会生涯学習課等、多様な主体と連携・協働しています。読み札や絵札を子供達自身が主体的に制作するだけでなく、地域ツアーの案内や絵札の描き方指導を地域住民が務めるなど、活動に関わる多くの大人も充実感を得ています。子供を中心に多様な主体がつながることで、地域全体が元気になり、未来へつなぐ地域づくりが進んでいます。

うわじま圏域子ども観光大使 実行委員会

信藤 明秀

～うわじま圏域子ども観光大使～

うわじま圏域子ども観光大使は、宇和島圏域(宇和島市、鬼北町、松野町)を誇りに思う子どもたちのことです。宇和島圏域のよさを体験し、そのよさを発信し、よりよい宇和島圏域のまちづくりをしていこうとする子どもたちを育てます。観光立国の基本理念である「住んでよし、訪れてよしの国づくり」の実現に向け、子ども観光大使としての活動を進めることで、子どもたちは自分たちの地域が大好きになります。そして誇りに思うようになります。子どもたちが、自分の住んでいる地域を大好きになることは、宇和島圏域の活性化のために極めて重要なことです。

瞳が輝くとき

数年前の「おでん∞café」で、ある女子大学生と出会った。子どもと共に取り組んだ活動を熱っぽく語るその姿には、情熱と希望があふれていた。

集会后、彼女は再び、私の所にきた。そして、「子どもの声を引き出す上で、大切なことは何でしょうか」と訊ねられた。聞くと、大学卒業後は、教職に就くことが決まっているとか。

そこで、「子どもの気持ちに寄り添う」とか「育ちの背景を大事に」などと、あれこれ言葉を交わした。その際の彼女の表情が大変印象的だった。目に力があり、きらきらと輝きを放っていた。

その輝きは、若さの故だけではなかったろう。彼女の眼の向こうには、共に学ぼうとする子どもの姿があったに違いない。

そう、彼女は子どもの教育に、大いなる希望を抱いていたのである。

あれから数年、彼女の現在地はどうだろう。今も変わらず、希望を胸に失わず、瞳を輝かせているだろうか。

村上 伸二

ヘルシーカフェのら(合同会社のら)

新井 純子

～人をつなげ、地域づくりを展開するコミュニティカフェ事業～

2009年から地産地消の飲食提供と地域課題解決のためのワークショップの2本柱で運営。2019年には10年を迎え、1000以上のワークショップを実施しました。住んでいる地域には素晴らしい力を持っている人がたくさんいることが証明されています。さいたま市だけではなく、どこの地域にもいえることです。

2020年からコロナウイルスの流行で「集まる」「しゃべる」ができなくなりました。しかし、だからこそこれからの社会の暮らしには、人が生きていく上での必要な仕事、エッセンシャルワークと、人が集まって気楽なおしゃべりができる「のら」のような場所の重要性に気がつけた時期でもありました。

今後はさらなる人とのつながりを活かして、また、様々な組織とネットワークを構築しながら横断的に地域課題を解決するきっかけの場にしていきたいと思っています。

愛媛大学 社会共創学部 牛山ゼミ・学生プロジェクトチーム

青木建汰・伊藤義樹

～伊予市三秋地区の放置竹林を活用した軽スポーツ“モルック”の実践～

私たちは、令和2年度から愛媛大学と伊予市三秋地区の連携・協働によるプロジェクトを継続し、中でも地域課題「放置竹林」を活用する取組を進めてきました。コロナ禍で地域スポーツは疲弊し、大人数が密集する従来型運動会などは開催することさえ困難になりました。しかしその一方で、イベント参加者同士が適度に距離を保ちながら、年齢を問わず誰もが親しめる「モルック」のような軽スポーツを導入する動きが現れました。

この新たな動きを支援したいと考え、現在活用されていない竹を原料とする「竹モルック」を考案し、その普及に取り組んでいます。私たちは『軽スポーツ』×『地域資源』×『交流』による地域の活性化と魅力の創出を目指しています。

「出会いとスキルアップの場」

私にとって地域教育実践交流集会は、出会いとスキルアップの場であり、やりたいことが見つかる場です。特に近年はオンラインでの開催となり、Zoomが活躍した集会となりました。最初は全くの手探りで始め、YouTubeで配信に関する動画を飽きるほど見ながら、機材の設定を考える日が続きました。まさにワクワクの連続です。

この歳になって、新しく挑戦できることや、ワクワク感を感じさせていただいた地域教育実践交流集会と、好きなことや興味のあることしかしらない我儘な私を支えてくださった皆様、出会ってくださった皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

平岡 剛

寺家田んぼ“〇むすび”

大熊 摩利

～〇むすび、ころりん！まあるく繋がる“みんなの輪”～

横浜市青葉区寺家町にある寺家ふるさと村内の田んぼを拠点に、稲作を事業の中心に置き活動している、大熊 摩利と申します。

活動に参加していただいている方は、この地域の方々を中心となっております。

その中には、認知症の高齢者、引きこもりの方、精神疾患をお持ちの方、身体障害をお持ちの方など、さまざまな障がいと言われるものをお持ちであっても、誰でも参加いただいています。

障がいの有無に関わらず、`人、はその地域に当たり前暮らしています。

その人と人が、自然な形でごちゃまぜに交われる `場、として、田んぼを捉え、活動してきました。

今回は、そんな田んぼでの活動を中心にお話をさせていただきます。

防災リーダークラブ

天野 里咲

～コロナ禍での活動と葛藤～

こんにちは！愛媛県内の大学生防災士による NPO 団体、防災リーダークラブです。当団体は松山市と愛媛大学が連携して進めている全世代型防災教育の中で設立され、行政と地域と協力し合い「防災・減災」を目指した防災普及活動を行っています。

今年度で発足から7年目に突入しましたが、近年はコロナによって思うようにはいかない葛藤を抱えてやってきました。今回は2年の間に抱えていた悩みや不安、その中で行ってきた活動についてお話させていただきます。

記念すべき第1回地域教育実践交流集会の全体会は鼎談だった。

鼎談って何？ 若松さんと二人で話をするのに対談ではないの？ どんな話をすればいいの？ などと疑問符をたくさん浮かべながら当日がやってきた。

緊張している私を横目で見ながら、実行委員の人たちは鼎談の場作りに燃えていた。畳やこたつが運び込まれ、作務衣を着せられたことは覚えているが、何を話したのかはさっぱり覚えていない。

緊張して頭の中が真っ白になったことは覚えている。鼎談を終え、ただただ若松さんに感謝の気持ちだけが残った第1回だった。



堺 雅子

分散会 9

34Aroom

ファシリテーター 森脇 和夫
記録者 時本 真弥
会場責任者 水谷 一美

名寄市教育委員会

佐々木 憲一

～体験活動を通じた子どもたちの成長～

名寄市教育委員会では、子どもが様々な体験を通じ成長できるよう、様々な事業を行っています。その中から、子ども会育成連合会と共に行っている「わくわく！体験交流会」と、実行委員会で行っている「へっちゃLAND」について紹介します。

わくわく！体験交流会は、小学4年生から中学3年生を対象に、登録をした30人の児童・生徒が、今年度は7回の体験活動を実施するものです。1回目はキャンプと枝打ち体験を行い、以降、カヌー体験、下の句かるた体験など7回実施します。実施に当たっては、高校生、大学生のボランティアが支援してくれます。

- へっちゃLANDは、「なんでもできる、一人でも平気、へっちゃらだ！」をキャッチフレーズに、今年度は小学4年生から中学1年生の10人の参加者が、2泊3日の日程で、キャンプ、炊事、登山、つりなどの体験を行いました。

えひめ地域こども食堂ネットワーク

難波江 任

～あらたなコミュニティのカタチあらたなつながりのハジマリ～

こども食堂は、子どもの生活や育成を食事で支えようと、2012年に東京の八百屋さんが始めた活動です。しかし、現在は、その趣旨をベースとして、地域の課題解決を地域の人たちの手によって解決するための手段の一つとして、それぞれの地域の方が、それぞれの困りごとや困り具合に応じて、独自のやり方で開催しています。愛媛県内には2022年8月末現在で95のこども食堂の活動が確認されていますが、30%程度のこども食堂がコロナ禍により休止しています。えひめ地域こども食堂ネットワークはその再開や新しいこども食堂の開始や継続実施などもお手伝いしています。

この活動をとおして見えてきた、これからの子育ての在り方、地域の関わり方について、再確認したいと思います。

地域教育実践交流集会はよき『出会い』の場

社会教育との出会いは、小中高等学校 PTA 仲間との『出会い』でした。子どもが卒業して、PTA 活動も卒業することが多い中、讃岐幸治先生や村上伸二先生と出会ったことで、社会教育主事資格を取得し『NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構』の設立にかかわり現在に至ります。

地域教育実践交流集会で出会ったよき社会教育仲間と現在も共に活動（御五神無人島体験事業やみなちやれ等）しております。

地域教育実践交流集会在愛媛県はもとより全国の社会教育仲間との『よき出会いの場』として今後も発展されることを期待しております。

小笠原 貴久

分散会 10

オリエンテーション
room

ファシリテーター 水野 浩司
記録者 都合 美帆
会場責任者 石原 善久

未来応援コミュニティb-room ぶるーむ

佐藤 淳子

～高校生のためのサードプレイス～

「家庭でもない学校でもない第3の居場所」として高校生が安心して過ごせる居場所づくりを目指しています。

地域の仏壇店が無償で貸して下さった駅通りにあるテナントが、私たちの居場所「b-room」です。放課後は気軽に立ち寄れる場所に、土日祝祭日は高校生向けの講座、ボランティア活動や体験活動を行っています。また、地域内にある県立高校と連携し、高校生が地域で活躍できる機会をコーディネートしています。

これからも、b-room の活動をとおして地域が高校生の輝ける場所に、また高校生が地域をもっと元気にできたらと思います。

(株)サン・クレア

清水 裕太

～宇和島オリエンタルホテル～

宇和島市内にあるビジネスホテルがマルシェを開催！

地方都市の課題や魅力を地元の方に伝えるために考えついた方法が『マルシェ』でした。令和4年1月に第1回 ORIENTAL MARKET を開催しました。続いて第2回はバージョンアップさせ『若者が地元の事を好きになるきっかけ作り』をテーマに学生参加型のマルシェを4月に開催しました。

そこで感じたことを活かして、現在は松野町目黒での地域の魅力を発信するための新たな取り組みを行っています。

未来をイメージさせる（創るのは）のは、大人たち
（子どもたち）！

よく「釜石の奇跡」と言われます。防災教育を系統化して熱心に行っていた釜石市において、震災直後小・中学生がお年寄りの手を引いて、高台へ更に高台へと避難していったシーンがクローズアップされている訳です。

何年か経って、私はあの時中学1年生だったという釜石の若者たちに、話を聞く機会を得ました。彼らは「多くの大人たちが、避難誘導に動き回っていて“頼もしかった”。」「津波が来てからは、消防団員の人たちがびしょ濡れで救助作業を重ねるのを食い入るように見ていた。」

そんな大人たちの懸命な姿から、僕らにもできることを精一杯に…、となって「釜石の奇跡」は生まれた、と言うのです。

人は育てられたように育つ…未来を創る子どもたちに、我々大人たちがカッコいい後ろ姿を見せつけることが、地域教育の屋台骨を支えることになるのでしょうか！

中尾 茂樹

分散会 11

21room

ファシリテーター 土井 慶樹
記録者 井上 省吾
会場責任者 石原 善久

益田市教育委員会

大畑 信幸

～島根県益田市発！「社会教育コーディネーター」が学校教育地域教育を変える～

平成 28 年度より、益田市独自の「社会教育コーディネーター」をコミュニティスクールとなった豊川小学校に配置しました。しかも、職員室に常駐させ、学校教育と社会教育の往還を進め、学校外での子どもたちの活動を地域総出で行う仕組みづくりにトライしてもらいました。その結果、「学校を核とした地域づくり」が実現ができました。

現在、益田市には、4名の社会教育コーディネーターがおり、来年度は、さらに2名の増員を計画中。社会教育側のカウンターパートナーとして公民館が位置付き、益田市の「ひとづくり」施策の原動力となってきています。

松山市青少年育成市民会議

西川 暁

～松山市子ども健全育成事業 土曜塾～

学習塾に通っていない生活保護受給世帯、非課税世帯、ひとり親世帯等の中学生を対象に毎週土曜日に大学生が学習支援をしています。学力の向上だけでなく、年齢の近い大学生が関わることで中学生の居場所としての役割も重要なものと位置づけ、松山市内3教室体制で運営しています。

また、学生自身が自ら主体性を持ち、問題解決に当たることで、社会に出る一歩手前での社会性の向上にも寄与する事業です。

地域教育実践交流集会の起源は、県の地域子ども教室運営委員会で、現在もメンバーとして動いている同志から、「日頃多くの人が子どもたちの未来に向けて活動しているのに、つながりが少なく寂しいよね。苦労談や自慢話をワイワイざっばらんに語り合える場が必要だね」そんな意見が出たことに遡ると記憶しています。

それから、15年の歳月を経て、このときの皆の思いは着実に愛媛の地に根ざし、全国各地の仲間とのつながりを得て、根を張ってきたなと実感します。これからも歴史を重ね、花を咲かせ、実を結んでいくことを願うものです。

この間、社会は大きく変わり、いつの間にかコミュニティスクールが当たり前になり、学校と地域社会の壁は低くなりました。

と同時に、子どもたちにどんな将来が到来するのかが分かりにくい社会にもなっています。

これからも子どもたちに伴走しながら、ともに学び、子どもたちが希望を抱くことができる地域社会を創っていききたいものですね。

関 福生

分散会 12

22room

ファシリテーター 柴崎 あい
記録者 高田 愛子
会場責任者 石原 善久

国立市公民館

井口 啓太郎

～コーヒーハウス(しょうがいしゃ青年教室・喫茶わいがや)～

国立市公民館の青年室を拠点にして、障害の有無にかかわらず、共に学び、活動する取り組みの総称を「コーヒーハウス」と呼んでいます。

「コーヒーハウス」の活動の中心には、公民館事業の「しょうがいしゃ青年教室」と「喫茶わいがや」があります。「しょうがいしゃ青年教室」は、障害者と健常者の若者たちが参加し、スポーツ・YW(みんなで話し合ったいことを実現する活動)・クラフト・料理・リトミック・喫茶実習の各コースに分かれて活動しています。「喫茶わいがや」は、公民館 1 階の喫茶店として活動し、公民館の利用者や一般市民の憩いの場であり、コーヒーハウスの仲間たちの居場所です。

「しょうがいしゃ青年教室」の喫茶実習の活動の場でもあり、障害者も運営に関わるスタッフとともに活動していません。

双海町ジュニアリーダー会

二宮 莉穂・中野 珠里

～双海町ジュニアリーダー会の活動～

結成から 11 年、たった一人の「双海町こども教室に恩返しをしたい」と始まった本活動も、今では 30 名を超える会員が活動しています。結成当初の「恩返しをしたい」という想いを引き継ぎ、こども教室での企画・運営に携わっています。さらに、その想いはこども教室だけにとどまらず、今では双海町を盛り上げる活動へと波及しています。当会の結成プロセスから現在の活動状況、そして参加する会員たちの双海町への思いなどを、実際の大学生リーダーがご紹介します。

踊る阿呆に見る阿呆 同じ阿呆なら 踊らにやそんそん！

第 15 回テーマ「地域教育で未来を創る」。実行委員としても個人的な実践としても、まさにそのような思いを強く感じています。3 つの実践を振り返り、皆様へのお礼とさせていただきます。

一つ目は、「喜久家プロジェクト～若者ボランティアと共に郷づくり」。16 年前から、限界集落の我がふるさとに、国内外から若者ボランティアを受け入れ、柑橘作業を中心に郷づくりに関わってもらっています。その数約 800 人。多くの感動がありました。そして、ついに来年、その参加者の一人が移住することになりました。新たな風が吹きそうです。

二つ目は、母校「愛媛県立三崎高等学校」の輝き。10 年ほど前から生徒数減少による分校化そして閉校の危機が心配されていました。その頃から魅力的な地域連携をかなり進められていましたので、高校生の交流会参加と事例発表を何度もしていただきました。

今や生徒数は 2 倍ほどに増え、県内外で同じような悩みを抱える高校や地域の実践モデルとなっています。

三つ目は、「世界農業遺産」へのキセキ。愛媛県南予地方の柑橘農業システムは、2019 年に日本農業遺産に認定されました。そして現在、さらに高い基準の世界農業遺産への認定を目指して取り組んでいます。地域が広域に連携し、同じテーマの実現を目指して取り組んでいく新たなカタチです。本大会分散会において、エネルギーな若者メンバーが実践発表します。

これら 3 つの実践に共通していることは、「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」してきたこと。地域教育で未来を創れるということです。これまで、様々な交流により、多くの勇気と元気をいただいたことを心から感謝しています。これからも、よろしく願いいたします。

浅野 長武

KSVN(嘉瀬小学校ボランティアネットワーク)どようひろば部

山下 有希

～施設開放事業・子どもの居場所作り「どようひろば」～

地域、保護者、学校が協働し、2002年(平成14年)学校週5日制に伴い嘉瀬町の子どもたちの休日の居場所について話し合い、組織をつくり、「地域の子どもは地域で育てよう!」を合言葉に、第3土曜日の午前中、嘉瀬小学校学校の施設を利用し色々な体験活動をしています。

『子どもたちが伸び伸び、生き生きと遊び、夢中になって活動できる場。保護者も子どもと一緒に参加し、地域の方や保護者同士の交流を深めたり、子育て、食育などについて学んだりする場。地域住民の交流を深め、人と人とのぬくもりあるつながりを醸成する場』などの場づくりに取り組んでいます。

○読み聞かせ、群れ遊び(昔遊び等)、小物作り、わくわくサイエンスと、どようひろばカフェ(スタッフ間の交流の場)など

愛媛県立三崎高等学校

津田 一幸・代表生徒

～みさこう・せんたんプロジェクト～

西宇和郡伊方町で唯一の高校である本校における進路状況は、卒業を機に都市部へ転出していく生徒が多く、また、伊方町は地域の担い手不足が深刻化しており、大きな地域課題となっています。そこで、地域を担う存在である高校生が地域の良さを再発見し、郷土愛を育み、地域に誇りを持った社会人になり、将来地元に戻り地域のリーダーとして活躍する人材(「ブーメラン人材」)に育つことをねらいとし、学校全体で「みさこう・せんたんプロジェクト」に取り組んでいます。

これまでに地域イベントの企画・運営や特産品開発、情報発信や地域文化の継承活動等に取り組み、学校を核とした新しい地域づくりに取り組んできました。

今後も高校と地域の協働体制を深化させ、四国最西端から最先端の活動を行っていきます。

年度の地域教育実践交流集会にご参加いただき、ありがとうございます。

今回、アトラクションとして用意した動画は、東予・中予・南予より子供達と地域が密接につながる伝統行事を厳選してお届けしました。

昔から、子供達は地域行事に参加することで、「地域のチカラ」として活躍していました。本集会も、様々な実践事例を提供することで、皆様のチカラになりたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。



鍵山 直人

分散会 14

24room

ファシリテーター 小池 源規

記録者 桑野 紗衣

会場責任者 上田 和子

NPO おのみち寺子屋

西川 峻・奥野 愛絵・今村 美雨

～第20回おのみち100km徒歩の旅—おの100挑戦隊『感動創造の旅』～

小学4年生から6年生までの小学生が4泊5日を掛けて尾道市内100kmを歩き抜く事業です。

昨年、一昨年はコロナ禍により事業内容を変更しましたが、本年はスタンダードの“おの100”を開催することを前提にして、春先からさまざまな場面でのコロナ対策を検討しました。

コロナ対策は500項目近くにも及びましたが、担当係りによる対策管理を徹底する中で、参加小学生45名が学生スタッフ58名とボランティア研修生6名にサポートされ、100km全員完歩することが出来ました。

コロナ禍だからこそ、地域のサポートや開催出来ることが当たり前ではないことなど、観えない力に対する感謝の念を育むことが出来ました。

特定非営利法人松山さかのうえ日本語学校

門田朝陽・山内暁道・ブイ・クアン・サン

～国際子ども食堂～

愛媛県、松山市を中心に、多文化共生につながる外国人支援に関する事業を展開しています。主には、外国人が地域の子どもたちに母国の料理を振る舞う「国際子ども食堂」を開催しており、2021年3月のオープンから、1年半で100回を数えました。毎回60～80食を作り、外国人、日本人の大学生や高校生と子どもたちが同じテーブルで、同じ目線でごはんを食べます。

また、外国人の支援として、日本語教育や、防災教育、病院同行、技能実習生向けのフードバンク事業も展開しています。このほか、県内外の大学や高校で、外国人支援に関する講義なども提供しています。運営には、留学生のほか、地元の大学生や高校生が携わることで、将来のグローバルリーダーの育成にも尽力しています。

先行き不透明な現状が続いている。課題解決が容易ではない今日の状況は、「結果が出ないことに取り組まない」「失敗を社会や他人のせいにする」「自分の心地よさを優先する」というマイナスの姿勢につながっているとされている。そういうマイナスの姿勢や態度に対し警鐘を鳴らし続けたい。

学校と地域、家庭が協働して「自ら挑戦し乗り越える体験により、自分には現実を変える力があること」「失敗も含めた様々な体験によって自らが果たすべき役割を自覚し、主体的

に行動すること」を体感させる必要がある。だれもが安心して幸福を感じながら生活できる地域づくりを地域教育の実践から学びたい。

中尾治司

分散会 15

ファシリテーター 田邊 裕貴
記録者 濱口 愛美花
会場責任者 上田 和子

ミュージック room

NPO 野真戸

栗田 三恵子

～子どもの健全育成を目的とした無料塾と子ども食堂の運営～

野真戸は 2022 年5月に発足した団体で、小学生から高校生を対象にした、無料塾と、子供から地域のお年寄りみんなに来てもらえる子ども食堂を運営しています。野真戸の文字には、野にある真実のとびらという意味が込められ、ノマドは you(あなた)のどこでもドアをキャッチフレーズとしています。

学習に支援を要する子どもに、その子どもの状況、環境、レベルに合う学習支援をすることで、自信を取り戻し、学校や勉強が楽しくなるようお手伝いをしています。敢えて無料にこだわるのは無料を掲げなければ出会えないであろう子ども達との出会いを求めているからです。

えひめ農業遺産でなんかしようや！の会

矢野 論稔

本プロジェクトは、愛媛・南予の柑橘農業システムの世界農業遺産認定を目指す有志メンバーによって運営されています。主な目的は、愛媛の柑橘農業の現場に足を運び、遺産を未来に継承するための糸口を探ることです。2022 年 4 月～5 月の伊方町と八幡浜市の柑橘園地の訪問では、地域が抱える課題として、柑橘農家の後継者不足の問題や柑橘栽培が生物多様性に与える影響について学びました。

以上の背景から、私たちは「農業遺産×生物多様性」と「農業遺産×若者」というトピックでディスカッション・セミナーを実施し、地域課題の解決に向けた取り組みを実施しました。

本発表では、上記の取り組みから見えてきた愛媛柑橘の農業遺産の姿と次世代の担い手育成について考察します。

「この会にたいする思い」という題で交流集会の 13 人にコメントをいただきました。

立っている位置はそれぞれ、この集会上で集う考え方も違います。ただ一つの思いは同じ「未来につなぐ命—子どもたちのために、かかわりをチカラに つながりカタチに」そのことが、わたしたちをつないでいます。

私たちが生まれて死ぬまでの間に、自分の行動範囲外のことをどれほど「わかり得る」ことができるのでしょうか。この会をつうじて、「知る」意味を考え、取るべき行動を自分自身で選び、選んだことに責任をとる。その一連の作業について実感しました。

子どもたちは、地域社会であるいは体験活動で大人とともに活動することによって、知らず知らずのうちに自分を形成していきます。

ともに学びともに笑う、そのような仕掛けが自然にできるようになれば、世代を超えてたくさんの可能性が生まれます。

大人の多様性を信じて。

そのような時代が到来することを期待します。

今年度のチラシ・大会誌は、愛媛大学の学生 内藤さん、浅野さん、阿部さんに協力していただきました。



全体会 13:30~14:45

誌面にて
ふし全体会！

座談会

大学生が地域への思いを語る
愛媛×徳島

全体会で発表する「亀ヶ池プロジェクト」と「特定非営利活動法人ひとつむぎ」、ともに大学生、近未来に向けて彼らが、地域とどうかかわっていくか、リモートで語っていただきました。

亀ヶ池温泉プロジェクト
愛媛大学 4回生 浅野 さやか

亀ヶ池温泉プロジェクト
愛媛大学 4回生 阿部 眞子

愛媛大学 3回生
高村 亜未



愛媛大学 1回生
内藤 里紗

特定非営利活動法人ひとつむぎ
鳴門教育大学 大学院 1年生
岸 壮真

特定非営利活動法人ひとつむぎ
四国大学 4回生 越智 日和

※Zoomに参加できなかった愛媛大学3回生の山内恵さんも質問に答えてくれました！

①地域教育実践交流集会に参加したきっかけは何ですか？



岸

本イベントは、多くの団体の方が参加されるということで、人脈を広げることができたり他団体から活動のノウハウを学べたりする場になると考え参加を決めました。

高校の頃からご縁があり参加させていただいていました。地域教育に興味関心のある方々が一堂に会する貴重な機会です、自分の成長と、皆さんとのつながり・ご縁をつくりたいです 😊



浅野



山内

ゼミの先輩に誘っていただいたことが参加のきっかけです。この機会に様々な立場の人と関わったり、教育について新たな視点で考えを深めたりして自分自身の成長につなげたいと思いました。

1回生の時に友人に誘ってもらったことがきっかけです。地域と学校を繋ぐ架け橋のような存在の小学校教員になるために、この集会を通じて様々な方と関わり視野を広げたいです！



阿部



内藤

先輩から教えて頂き、教育に関する活動に何か関わることができたらと思い参加しました。教育について今から本格的に学ぶこの時期に勉強させて頂くことから始めようと考えています。

先輩にお誘いいただいたことが参加のきっかけです。実際に地域で活動している方々の実践事例を見たり、意見交換をさせていただいたりしながら、様々なアイデアや考え方を吸収し、教育に対する自分自身の考えを深めたいです。



高村



越智

昨年からのご縁がきっかけです。昨年は自分たちの活動に対し共感や応援のお言葉をいただき、励みになりました。今回も、活動事例から学びや気づきを持ち帰り、よい時間を作りたいです。

②大学生として地域と関わり続ける理由は？



岸

一番の理由は地域での活動がただただ楽しかったからです！また、私自身が高校教諭を志望していることから、当初は「自分の経験」のために活動をしていました。しかし、活動を通して地域の方々の温かさや子どもたちの笑顔に触れ、子どもでも地域の大人でもない大学生として「地域のため」「子どもたちのため」にできることを頑張りたいと思うようになり、現在も活動を続けています！

地域に関わる活動を通して、人とつながることに面白さを感じたからです。新しいつながりができる度に、誰かの知り合いが、実は別の誰かの知り合いだったみたいなことが多くあります。自分たちのふるさとをより良くしていきたいと志を同じくする人達に出会い、こんなご縁やつながりが広がるたびに、私はワクワクするのです笑 ✨ 私にとっての地域は、やはり地元の伊方町や三崎地域です。松山での取り組みで得たものを、地域活性化に還元していきたいと思います！



浅野



越智

地域に「大切なものが増えたから」です。事業で関わった中学生や高校生、地域のみなさん、法人の仲間などの人とのつながり。仲間と一緒に人生で初めて流れ星をみた海岸。活動を続ける中で、地域が「今よりもっと」大切な場所になり続けている感覚があります。だからこそ、地域のためにできることは何か、私が地域でしたいことは何かを考えたいのだと思います。

大学4年間、様々な地域創生型のプロジェクトに参加する中で、地域の人や物、特産品の素晴らしさに改めて気づきました。今、愛媛県では少子高齢化が進み、人口が減っている市町村がほとんどです。私が知った地域の魅力を、次は私が子どもたちに伝えていきたい！そして子どもたちの柔軟な思考を活かして地域を活性化したい！その思いで地域との関わりを大切にしています 😊



阿部

③先輩の話を聞いて



高村

地域の方々と関わる喜びや、地域の新たな魅力を更に発見し内外に伝えていきたいという熱い思いを伺うことができました。私も今後地域に根差した取り組みに参加し、地域で活動されている方々の思いや考えを受け取りながら、自分にできることを模索していきたいと思います。

先輩方が自分たちで企画、立案して地元の人々と関わりあう中で共により良い地域を作り上げて行こうという意志が伝わりましたし、忙しい中で時間をかけて準備されていて尊敬しました。大学生の内から様々な活動に関わることは自分の身になるのだと改めて感じる事ができました。



内藤



山内

先輩方は、それぞれ熱い思いを持って活動に参加されており、またどんな活動に対しても前向きに取り組んでいることが分かりました。私はまだ自分のしたいことや考えがまとまっていませんが、先輩方のように揺るがない自分軸を持って教育に関わっていけるよう、この集会等の貴重な経験の場を通じて、自分が興味のあること、関わっていききたいことを見つけていきたいです。

おでん∞café

15:00~16:00



回し人 舟田 美加

愛媛県内の公立中学校教諭を経て、平成30年4月1日より、愛媛県教育委員会社会教育課に勤務。社会教育主事

舟田さんからみなさんへ

厚揚げ、大根、卵、こんにゃく、餅巾着・・・みなさんそれぞれのおいしい素材を持ち寄り、心がポカポカ温まる美味しい「おでんカフェ」で、味わい、分かち合い、つながりましょう♪

今年のお題

全体会を聴いて

どう思ったか

World café

カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由に語り合います。

一定の時間が過ぎるとシャッフルして、新しいメンバーと話を深めます。対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集める対話手法の一つです。

移動可能な自由でオープンな設定により、会話を楽しみ、参加者がテーマをもとに相互理解を深めることを目的とします。問題解決や結論をもとめるものではありません。

【手順】

- ① 1つのテーブルに5~6人が着席します。お題について自由に話し合います。模造紙とペン、ポストイットを用意し、思いついたことを記入していきます。ホストを一人決め(今回はスムーズに会を回すためあらかじめお願いしています)ホスト以外は、回し人の指示に従い、最初のテーブルメンバーとかぶらないよう移動します。
- ② ホストは、新しいメンバーと簡単な自己紹介をして、そのテーブルで話されたことを説明し、さらに深めます。
- ③ 最後は、他のテーブルに散ったメンバーが最初のテーブルに戻り、移動先での内容や得た情報等とともに、さまざまな意見やアイデアを出し合います。
- ④ 各テーブルで出た話を全体で共有します。

※ポジティブに相手の話を受け入れること、内容に優劣をつける、また、意見を一つにまとめたり、結論をだしたりするものではありません。リラックスして、心をオープンにして交流を深めましょう。



2018年おでん∞caféの様子

地域教育実践交流集会への期待



讃岐 幸治

子どもたちの目に輝きがない。素直でまじめだが、何かおどおどしていて、ひ弱な「カイワレ大根」のようだ。子どもの生活から「地域が消えた」ことに原因があるのではないか。

受験勉強が第一。子どもたちは自分の住んでいる地域の自然や産業、しきたりなどについて、勉強する必要がなかった。「地域は無知」であっても、なんら受験に困ることはない。地域の価値について学んだことのない子どもに、地域に対する愛着・誇りがうまれようはずもなかった。「根無し草」のような落ち着きのない不安定な子どもが増えてきたとしても不思議ではなかった。

子どもたちは、ほとんどを家庭と学校での生活に費やし、地域は、家庭と学校を行き来する単なる「通学路」になってしまった。子どもたちは、家庭、学校という純粋培養の密室に閉じ込められ保護され、今やタフな生き方を学び、多様な体験のできる地域とは無縁な生活を送ることになった。

勉強が第一の生活では、河川の清掃活動、地域の祭りなどに参加する時間があれば、単語の一つでも覚えておいたほうがいい。地域には環境、防災、子育て福祉等、課題が山積しているが、子どもたちには関係ない。地域の課題解決には必要とされない無用なものとして、お客様扱いされてきた。

地域教育実践交流集会を開催しようと思いついたのは、子どもの教育から「地域が消えている」ことに危惧をもったことがきっかけだった。

一つには、子どもたちは中央のことは知っているが、自分の地域の自然、風物、伝統、地元の偉人などについては「無知」だ。地域の価値を知らないものに、地域への誇りや愛着を持てようはずもない。「地域(について)の教育」つまり、「地域探求教育」をすすめる必要がある。

二つには、子どもの教育は、画一性、強制性、知育中心を特徴とする学校に任せっきりで「地域とは無縁」だった。学校では子どもの多様性、自主性、体験活動を伸ばすには無理がある。学校を含めて、地域のだれもが、また、組織や機関、NPO等が協働して子どもの教育にかかわっていく、「地域による教育」つまり、地域と学校がスクラム組んで協働していく「地域協働教育」が必要だ。

三つには、子どもは、地域の一員としての責務は免除され、地域とは無用な存在として扱われてきた。「子どもは必要とされて大人になる」。子どもが地域課題に積極的にかかわっていく、「地域のための教育」つまり「地域貢献教育」が必要である。

地域を探求し、地域で協育し、地域へ貢献する教育実践が広がることを期待したものだった。

実行委員会 代表 若松 進一 名誉顧問 讃岐 幸治

赤石 雅俊・浅野 長武・浅野 さやか・阿部 眞子・石原 善久・井門 照雄・上田 和子・榎並 理子
遠藤 敏朗・小笠原 貴久・岡田 誠・越智 秀雄・鍵山 直人・キム チャンヒ・小池 源規・堺 雅子
坂口 智紘・柴崎 あい・関 福生・仙波 英徳・大藤 毅・高村 亜未・武智 理恵・田中 行
田鍋 修・田邊 裕貴・土井 慶樹・土手 康之・内藤 里紗・中尾 茂樹・中尾 治司・中島 弘二
長島 道子・西川 浩司・西川 康司・西山 博・橋本 泰志・東野 博子・平岡 剛・舟田 美加
本田 精志・本多 正彦・松本 宏・眞鍋 幸一・水谷 一美・水野 浩司・村上 伸二・森脇 和夫
森分 洋樹・谷川 玲子・山内 恵・山中 健司・吉田 和仁



スピンオフ企画

2020、2021年とコロナが蔓延しておりました。その中で、大会を中止するかどうか、実行委員会で協議した結果、オンラインで開催しました。

大洲まで行かなくても参加できるメリットで、たくさんの方々の参加がありましたが、他の分散会の発表も聴きたかったという意見がたくさん寄せられました。そこで、大会終了後、YouTubeに各団体の発表をupして、対応可能な事例発表者に参加者との意見交換の場を設けました。

今年は、参集とリモートでつながります。もっと、事例発表を聴きたいと思われる方に今年も、スピンオフでつながります。

- ① 令和4年12月24日(土)20:00~22:00
- ② 令和5年1月 7日(土)20:00~22:00
- ③ 令和5年1月 14日(土)20:00~22:00
- ④ 令和5年1月 21日(土)20:00~22:00
- ⑤ 令和5年1月 28日(土)20:00~22:00

※YouTubeで視聴後、15~30分の質疑応答・交流。1回あたり2~3事例を紹介します。

各地区ブロック集会のお知らせ

より地域に密着した実践交流の場としてブロック別交流集会を6年前から開催しています。

東予:令和5年 2月 5日(日) 西条市中央公民館
中予:令和5年 2月 12日(日) オンライン開催
南予:令和5年 2月 4日(土) 八幡浜市「やまと学舎」

問い合わせ先

〒791-1136 松山市上野町 650 番地 愛媛県生涯学習センター内
NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構 仙波
FAX:089-960-1900 TEL:080-1995-6001
mail:kouma@d6.dion.ne.jp

※過去の活動等、興味のある方は
<http://kochall.org/>

